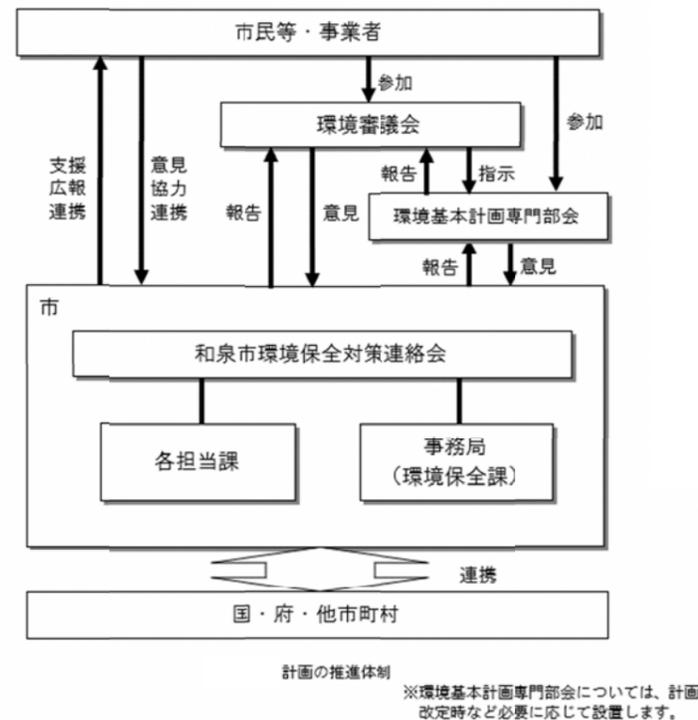


第3次和泉市環境基本計画概要版

VIII. 計画の推進に向けた方策 (本編 p.86~p.88)

計画の推進体制

- 本市の望ましい環境像の実現を目指し、本計画で示した取組について効果的・総合的に推進していくためには、市だけでなく、市民等、事業者がそれぞれの役割分担と責任のもと、お互いに協力して進めていきます。
- また、広域化する環境問題に対応するため、国や府、周辺市町との連携による取組についても進めていきます。
- なお、新型コロナウイルスに関する収束の見通しはたっており、ウィズコロナ・アフターコロナでの環境に関する取り組みの方向性はまだ定まっていないことから、適時、環境審議会でご意見をうかがいながら、必要な取組について検討を進めていきます。



計画の進行管理

環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 の考え方に基づく PDCA サイクルを基本とします。

PDCA サイクルは、計画の方針・目標を立て (Plan)、目標達成に向けて取組を実施し (Do)、その実施状況の点検・評価を行い (Check)、その結果により計画を見直す (Action) という一連の流れを繰り返し、継続的に改善を図りながら推進するものです。



令和3年3月 和泉市環境産業部環境保全課

I. 背景と目的 (本編 p.1)

本市では、自然と共生し環境への負荷の少ない循環を基調とする社会の実現を目指して、「和泉市環境基本条例」の基本理念に基づき「第2次和泉市環境基本計画」を平成23(2011)年3月に策定しました。その後、エネルギー需給に対する意識が社会的に大きく変化するなか、計画策定から5年後に中間見直しを行い、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

一方で、世界においては、SDGsの採択やパリ協定の発効など国際社会全体が協力して、温室効果ガスの排出削減などの脱炭素化や資源循環、さらには自然共生などに取り組むための枠組みの整備が徐々に進んでいます。

また、わが国においては、国際的な動向を取り入れた「第五次環境基本計画」が平成30(2018)年4月に閣議決定され、「地域循環共生圏」の創造やSDGsの考え方を活用した環境・経済・社会の統合的向上を具体化しています。

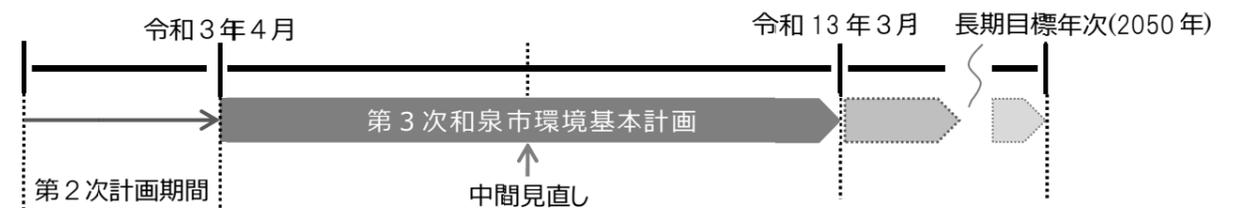
このような環境を取り巻く状況の変化に対応するため、本市においては、前計画の方向性を維持しながら持続的な取組を強化するために前計画の見直しを行い、「第3次和泉市環境基本計画」を策定するものです。

II. 計画の位置づけ (本編 p.4)

本計画は、「和泉市環境基本条例」第8条の規定に基づき、環境の保全と創造に関する施策について、総合的かつ計画的に推進する役割を担うものとして、目標や施策の大綱などを定めるものです。国の環境基本計画や「第5次和泉市総合計画」などの上位計画と整合性を図るとともに、環境の保全・創造などに関する各種計画と連携し、本市における環境行政を総合的・計画的に進めるための計画として位置づけるものです。

III. 計画の対象及び期間 (本編 p.6)

本計画の対象区域は和泉市全域とし、計画期間は令和3(2021)年度を初年度とし、令和12(2030)年度までの10年間とします。



IV. 望ましい環境像 (本編 p.33) ~みんなの環でひろげる「すくすく環境、わくわくいずみ」~

「すくすくと生き物が育つ健全な環境」「こんこんといずみが湧くような健全な環境」「ワクワクするような和泉の環境」を望ましい環境像に託し、実現するための環を広げていくことを目指します。

V. 基本目標 (本編 p.34)

近年の社会動向や和泉市が抱える環境の課題を踏まえ、本計画においては望ましい環境像の実現に向けて5つの基本目標を設定し、取組を進めていきます。

1. みんなで考え取り組むまちをつくる【参加・協働】
2. 脱炭素化に向けて取り組む持続可能なまちをつくる【気候変動】
3. 生物多様性を守りその恵みを受け継ぐまちをつくる【生物多様性】
4. もったいないの心で資源を大切にするまちをつくる【循環型社会】
5. 健康で安全な魅力ある住み続けたいまちをつくる【安全・安心】

VI. 目標値等・基本施策 (本編 p.35~p.71)

本市の望ましい環境像は、長期的・継続的に目指していくべきものであり、和泉市環境基本条例に示した基本理念及び基本方針に基づき設定したものであることから、本計画においてもこれまでの望ましい環境像を踏襲し、引き続き本市の望ましい環境像の実現を目指していきます。

—望ましい環境像— みんなの環でひろげる「すくすく環境、わくわくいずみ」

基本目標	代表指標	目標値	モニター指標	基本施策	取組方針
1. みんなで考え取り組むまちをつくる	環境に関する学習会等の参加件数	現状値(266回)以上	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育における環境教育にかけた時間(時間/年) 環境に関する情報の発信回数(回/年) 「環境にやさしい暮らしを営むことができる」と思う市民の割合(%) 	1 環境学習の推進	1 生涯学習における環境学習を推進する (p.41) 2 学校教育における環境学習を推進する (p.42)
	「町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れている」と思う市民の割合	50.0% (令和7(2025)年度目標)		2 環境活動の支援・促進	1 環境情報の共有化を推進する (p.44) 2 環境活動への支援を推進する (p.45) 3 市民・事業者・大学との連携を推進する【新規】 (p.46)
2. 脱炭素化に向けて取り組む持続可能なまちをつくる	市民1人あたりCO ₂ 排出量割合	平成25(2013)年度比約30%削減	<ul style="list-style-type: none"> 部門別温室効果ガス排出量の削減率(平成25(2013)年度比)(%) 再生可能エネルギー等設備導入量(kW) 森林整備面積(ha) 	1 エネルギーの適切な利用	1 省エネルギーを推進する (p.47) 2 再生可能エネルギーの利用を推進する (p.49)
	人口に対する公共交通(鉄道、一般路線バス、地域バス)の利用率	現状値以上 鉄道利用率: 31.7% バス利用率: 5.7% 地域バス利用率: 0.16%		2 環境に配慮した移動の促進	1 公共交通の利用促進と効率的な利用方法を啓発する (p.50)
3. 生物多様性を守りその恵みを受け継ぐまちをつくる	貴重動植物の数	現状維持(6種類)	<ul style="list-style-type: none"> 森林経営計画に基づくいずもくの年間搬出材積(m³) 一人あたりの都市公園・緑地の面積(m²/人) 「公園等のみどりに接する環境が整っている」と思う市民の割合(%) 	1 生物多様性の確保	1 多様な生物が息づく環境を保全・回復する (p.53) 2 生物多様性を向上し利活用を推進する【新規】 (p.55)
	緑被率	現状維持(73.4%)		2 自然の保全と人との共生	1 豊かな森を守り育てる (p.56) 2 農地を保全し有効に活用する (p.57) 3 都市緑化と緑地の保全を推進する (p.58)
4. もったいないの心で資源を大切にすまちをつくる	家庭系ごみ1人・1日あたりの排出量	449.36g/人・日 (令和7(2025)年度目標)	<ul style="list-style-type: none"> 資源化率(%) 「ごみのリサイクルが進み、衛生的なまちづくりが行われている」と思う市民の割合(%) 	1 ごみの削減と自然循環の推進	1 リデュース(廃棄物の発生抑制)を推進する (p.60) 2 リユース(再使用)を推進する (p.61) 3 リサイクル(再資源化)を推進する (p.62)
	事業系ごみ年間排出量	17,065t/年 (令和7(2025)年度目標)		2 廃棄物の適切な処理の推進	1 循環型廃棄物処理システム構築を推進する (p.64)
5. 健康で安全な魅力ある住み続けたいまちをつくる	環境基準達成状況	大気: 100%、水質 100%、騒音: 現状値以上	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃の回数(回/年) 「地震や台風等の災害に対する備えができている」と思う市民の割合(%) 	1 健康なまちづくりの推進	1 良好な生活環境を保全する (p.65) 2 化学物質などによる環境リスクを低減する (p.67) 3 まちの環境美化を推進する (p.68)
	雨水管整備面積の割合	49.06%(令和7(2025)年度目標)		2 安全なまちづくりの推進	1 災害に強い環境に配慮したまちづくりを推進する (p.69)
				3 魅力あるまちづくりの推進	1 地域の個性を活かしたまちなみづくりを推進する (p.71)

VII. 重点プロジェクト (本編 p.72~p.85)

重要度が高く優先的に取り組むべきことを重点プロジェクトとして位置づけ、推進していきます。

1. 気候変動対策(温室効果ガス削減・適応策)	2. 生物多様性の保全	3. 循環型社会の形成
<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの利用促進 温室効果ガスの排出の抑制、削減への取組 省エネルギー化の推進と意識啓発 水の有効利用 自動車の適正利用の促進 公共交通機関の利用促進 都市緑化と緑地の保全 廃棄物の発生の抑制等、循環型社会の形成 公民協働によるごみの減量化の促進 廃棄物の適切な処理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察会や公民協働の清掃活動の実施等多様な主体連携による学習機会の提供 現在の自然環境の担い手と連携しながら、大学や高校等次世代との連携も模索しつつ、新たな担い手を発掘 森林の多面的機能の向上および森林資源活用の推進 みどりの基本計画と両輪による保全と活用 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの推進 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみゼロに向けた取組推進 プラスチック製容器包装、ペットボトル、ストロー等のワンウェイプラスチックの削減に向けた普及啓発 リユース食器等の利用啓発 3Rの推進 ごみ分別アプリによる分別方法の普及啓発 家庭でできるごみ減量策の啓発 食品ロスなどの新たな課題について、協働で取り組む仕組みづくりの検討 